

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700412		
法人名	株式会社 さわやか倶楽部		
事業所名	さわやか グループホーム せいのう		
所在地	〒806-0013 福岡県北九州市八幡西区清納2丁目11番13号 093-662-8100		
自己評価作成日	平成26年04月17日	評価結果確定日	平成26年05月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

河頭山のふもとに位置し、桜のきれいな川頭公園が近くにあり自然豊かで閑静な住宅街にあります。 夏は黒崎祇園が玄関前まで来てくれて地域との交流に力をいれています。
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 093-582-0294		
訪問調査日	平成26年05月08日		

桜の名所河頭公園近くの、閑静な住宅街の中に、小規模多機能ホームと併設の「さわやかグループホーム せいのう」がある。「慈愛の心、尊厳を守る」を理念の柱とし、職員は、利用者が生まれ育った馴染みの地域の中で、利用者の喜びと、生きがいのある暮らしの支援に取り組んでいる。地域のスーパー閉鎖に伴い、ホームの交流室を開放し、青空市場やコンビニの移動販売を月2回開催し、地域住民と利用者、職員の交流が始まっている。運営推進会議を活用し、地域との交流を広げ、黒崎祇園山笠が、玄関に立ち寄り、開設1年目ではあるが、地域との信頼関係が築かれている。また、ホームドクターによる往診と、かかりつけ医の連携で、利用者の健康管理は24時間万全で、「ここを選んで良かった」という家族の深い信頼に結び付いている「さわやかグループホーム せいのう」である。
---

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「慈愛の心、尊厳を守る、お客様第一主義」の理念をスタッフ全員が共有し、実践している。	法人理念を掲示し、毎朝の活力朝礼の中で唱和し、職員一人ひとりが理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。「利用者への尊厳や敬意の念を持って仕事に臨むこと」から始まる、ホーム長の思いが集約された「職員の心得15カ条」を基に、利用者の本意を大切に、その方らしい暮らしの支援に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、運動会、老人会の催しなどに利用者と参加している。	自治会に入会し、利用者職員は地域の一員として、行事等に参加している。近隣のスーパー閉店後、地域のために地域交流室を開放し、月2回、あお空市場を開催している。少しずつ近隣住民の利用が増え、地域交流の輪が広がっている。また、黒崎祇園の山がホーム前の駐車場まで入ってくれて、利用者が大変喜ばれていた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる運動会などに参加したり、青空市場、地域との交流会などに地域の方たちに来館していただき交流を図り、理解していただいている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している運営推進会議では、グループホームの現状、取り組みなどを報告し、さまざまな意見を聞き、サービス向上に生かしている。	会議は、併設小規模多機能ホームと合同で2ヶ月毎に開催し、ホームの運営状況や取り組み、課題等を報告し、参加委員からは、外部の目を通して、質問や要望、情報提供を受け、充実した会議である。近所のスーパー閉店後に、地域交流室を開放し、あおぞら市場を月2回開催することも、会議で検討された取組みである。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター、保護課などの担当者とは、入居情報やグループホームの取り組みなど連絡している。	管理者は、行政窓口にも、利用状況や困難事例等の相談に出向き、情報交換しながら連携を図っている。また、運営推進会議に、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの現状を理解して、アドバイスや情報を提供して貰い、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本社のコンプライアンス委員会や、介護勉強会、グループホーム勉強会などで学んだことを持ち帰り伝達をしている。	身体拘束に関しては、法人で徹底して取り組んでおり、委員会活動、勉強会等の機会に職員の意識づけを行なっている。管理者や職員は、利用者の人権を守ることが、ケアの基本であるという認識に立ち、言葉や薬の抑制も含めた、身体拘束をしないことを、職員間で常に話し合い、注意しながらケアの実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がおこなわれたり、見過ごされることがないように、フロアミーティングやカンファレンスで話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての学ぶ機会を持ち、個々の必要性を話し合い、支援している。成年後見制度もお一人手続き中。	現在、成年後見制度の申請中の利用者がおられるので、職員は、制度について身近に学ぶ機会を持っている。また、法人研修会の中で、制度について学んだ職員が、内部で伝達研修を行い、職員全員が、制度の重要性と内容を理解し、利用者や家族が制度を必要とする時に、支援できる体制が整っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定などの際、その都度十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しており、その内容を壁に掲示したり、職員会議・運営推進会議の折、報告をしている。	年2回の家族会、日頃の面会や行事参加の時に、利用者の健康状態や生活状況を報告し、家族の意見や要望を聴き取っている。ホームのブログを更新し、利用者の暮らしぶりを伝え、家族の安心に繋げている。また、電話で家族の意見や要望を聴き取り、業務改善や介護計画作成に反映させている。	法人が企画しているブログへの取組みはあるが、ホーム独自のホーム便りを作成し、より個別に行き届いた報告をする事によって、家族の安心と信頼に繋げることを期待したい。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、カンファレンス、申し送り時などで職員の意見や提案を聞き、反映させている。	毎月フロア会議を開催し、管理者は、職員が意見を出しやすい雰囲気心掛け、活発な意見交換が出来る。出された意見やアイデアは、出来るだけホーム運営に反映させ、職員同士の「サンクスカード」の取り組みと合わせ、職員の意欲に繋げている。また、毎日の申し送りの中で、職員の気づきを出し合い、迅速に対応している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務終了後、日報を書いている。管理者はその日報を読み、各職員の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用の際、性別・年齢などを理由にその対象から排除することはない。また、事業所で働く職員の能力を發揮して生き生きと働いている。	職員の募集は、年齢、性別、経験等の制限はなく、人柄や介護に対する考え方を優先して採用している。採用後は新人研修やスキルアップ研修で、職員の介護技術を高め、特技を持った職員の役割分担や、勤務体制に配慮し、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。また、資格取得のための勤務調整、希望休や勤務時間についても、柔軟に配慮されている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	さわやか倶楽部に入社した職員は全員新人研修に参加し、その中で理念や人権教育の講義があり、啓発活動にも取り組んでいる。	法人全体で新人研修会を開催し、人権について学び、利用者の人権を尊重する介護のあり方を、職員間で話し合っている。法人理念に「慈愛の心・尊厳を守る・お客様第一主義」が掲げられ、職員は、毎日唱和する事で確認しながら理解し、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に新人トレーナー制度を実施し、介護業務を指導している。その他にも、法人内外の研修に参加している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八幡西区の同業者や居宅事業所との交流を図っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された段階でご本人と関わる機会を多く持ち、困っていること、不安なこと、要望などを受け止められるよう努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていること、不安なこと、要望などをしっかり受け止め、安心していただけるよう、関係づくりに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より、まず必要としている支援を見極め、安心・快適な生活が送れるよう支援している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活のなかで本人のできることを共にすることで、安心した暮らしを共にすることができるよう、支援している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人とのかかわりを大切にして、共に支えていくことができるようしゅんしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くに住んでいた方も多く、外出レクの際も家の近くや地域を通ったり、なじみの人にも交流会などに来館してもらい、関係が途切れないよう支援している。	近隣からの利用者が多いので、友人、知人の面会も多く、また、行きつけの店への買い物や、馴染みの理美容院に出かける等、利用者の馴染みの関係継続に取り組んでいる。また、介護相談員とも一緒にカラオケをする等、楽しい時間を過ごしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、和やかに過ごされている。コミュニケーションのとりにくい利用者にはスタッフが間に入り関わられるよう支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしなが、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去になった場合でも、ご家族・本人より相談をうけられる限りのフォローをし、支援している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの暮らし方や意向を把握し、希望に沿った生活が続けられるよう、検討し支援している。	職員は、入居時に日々の暮らしの中で、利用者の思いや意向を家族から聴き取り、利用者がその人らしく暮らし続けることが出来るように支援している。「バッテリーが食べたい」と言われる利用者や、回転饅頭が好物の利用者の誕生日には、バッテリーや回転饅頭を準備して食べてもらい、大変喜ばれている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や習慣、環境を大事にしこれまでの生活と大きくかわらないよう支援している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの方の一日の過ごし方、心身状態、有する力の現状を把握し、支援している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らせるため、介護計画・モニタリングを行う上で、関係者みんなの意見を反映し、介護計画を作成している。	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、介護する職員の課題ではなく、利用者のその人らしい暮らしを支えるための課題やケアについて、担当者会議で検討し、利用者や家族が満足出来る介護計画を定期的に作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、その都度家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って、気づきや工夫を個人記録に記入し、スタッフ間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズを捉え、柔軟に対応できるよう支援している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、利用者が心身の力を発揮しながら安心・安全に生活できるよう支援している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームせいこのように往診される先生に定期的な診察を受けている。かかりつけ医が外部の方は家族の協力で受診している。	利用者や家族の希望を優先し、馴染みのかかりつけ医の受診を、家族の協力で実施している。医療情報は共有し、緊急の場合の対応についても検討し合って確認している。ホームドクターによる定期的な往診と職員の気付きが早期発見に繋がり、利用者、家族が安心出来る医療連携体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居宅療養管理指導の中で情報や気づきを小規模多機能の看護師に伝え、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、すみやかに病院関係者と連携を図り、情報交換を行い、できるだけ早期に退院できるよう努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合や終末期についての話し合いを行い、当方でできることを説明し、本人・ご家族の意向に沿った支援をしていく方針をとっている。	契約時に、利用者、家族とターミナルケアについての話し合いを行い、ホームで出来る支援について説明し、理解を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と段階的に話し合い、今後の方針を確認し、職員間で方針を共有し、利用者や家族が、安心して終末期を迎えられる体制を整えている。	利用開始時に、ホームで出来る支援についての説明は行っているが、重度化や終末期に向けた方針を定め、指針として文書化し、説明の上、本人、家族の同意を得る取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を行っている。AEDの使い方も業者に説明を受けている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間・夜間対応の火災訓練を毎月行っている。地域との連携も運営推進会議で議題に上げ協力体制を築いている。	消防署の協力と指導を得て、年2回防災訓練を実施し、消火器、通報装置の使用方法や、2階はバルコニー、3階は非常階段の踊り場に避難誘導する事を打ち合わせて確認する等、利用者が安全に避難出来る体制を整えている。また、毎月、職員会議の日の午前中に、昼夜を想定した自主避難訓練を実施し、いざという時に備えている。	1階の小規模多機能ホームと2階、3階のグループホームの職員の夜勤時の連携体制の確認と、地域との具体的な協力体制の構築、災害時に備えての非常食、飲料水、非常用備品等の準備を期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊厳を守る」の理念を全員で実践し、利用者様一人ひとりの人格を尊重し、安心して生活を続けられるよう支援している。	職員は、利用者一人ひとりの尊厳を守る為に、常に話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスに取り組んでいる。理念の中にも、「尊厳を守る」と謳い、職員は常に理念を意識したケアに取り組んでいる。また、利用者の個人記録は、鍵のかかるロッカーで保管し、職員の守秘義務については、管理者が常に話をして周知されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の日課、外出レク・買い物レクなどすべてに本人の思いや希望を自己決定できるように働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、みんなが快適に生活できるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で着る服を選んだり、職員がお化粧品教室を行ったりして生きがい作りの支援をしている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓を拭いて貰ったり、いわしを開いてもらったり、調理しているとき助言やアドバイスを聞き、準備や片付けをしている。	利用者の嗜好調査を行い、献立に採り入れて、職員が交代で作る美味しい手料理を提供し、大変喜ばれている。利用者は、テーブルを拭いたり片付けを一緒に行い、食事と一緒にテーブルを囲んで楽しそうに食べている。また、系列のレストランでの外食は、利用者の大きな楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を考慮し、食事摂取量や水分量が確保できるよう;支援している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分でできる方には声かけをし見守りに対応。介助の必要な方にはしっかり口腔ケアを行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに声かけをし排泄の失敗がないよう支援している。	トイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンや生活習慣を把握し、早めの声かけや誘導で、失敗のないトイレ誘導を行い、利用者の自信回復に繋げている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握。運動をできる限りしていただき食事でも繊維質の多い食事の提供を支援している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に沿った時間など、調整を図り入浴支援を行っている。	入浴は、利用者の希望を優先し、何時でも入れるように支援している。入浴は、利用者と職員が1対1で向き合い、人間関係を築ける時間として大切にしながら、利用者の若い頃の話や聴く事ができ、職員全員で共有している。また、入浴を拒否される方には、「お薬つけに行きましょう」等、声掛けを工夫しながら対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じ、入眠時間・起床時間を把握し気持ちよく眠れるよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を把握し、主治医・薬剤師と連携を図り服薬支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活が続けられるよう、できることに役割を持っていただき、生きがいのある支援をしている。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	職員の人数を調整して、家族の方たちの協力を受け、本人の希望に沿った支援をしている。	利用者の希望を聴きながら、近くのお地藏様参りや散歩に出かけ、裏の畑でトマト、胡瓜、オクラ等を栽培している。また、2階のテラスにテーブルや椅子を出して、3階の利用者と一緒におやつを食べる等、外気を感じて気分転換をしている。法人所有の別府温泉への一泊旅行や、季節毎の花見等、積極的に外出支援をしている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常は施設で預かっているが、どうして持っていたい利用者は家族の了解のもと、持たせている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の電話や手紙のやり取りは希望に沿っていつでも対応している。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節の行事や写真などを飾り心地よく過ごせるように工夫している。	3階建てビルの1階には足湯や地域交流室を設置し、コンビニの移動販売や、あおぞら市場を開催し、地域の方との交流が始まっている。2階・3階にグループホームがあり、掃除の行き届いた明るい共用空間に、季節毎の作品や飾り物、写真、絵等を掲示し、居心地の良い共有空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コーナーに椅子を置き、ゆっくりと過ごすことができるよう工夫している。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが自宅から持参したものを設置して居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者のお気に入りの物や、家具、家族の写真等を家族の協力で持ち込んでもらい、出来るだけ自宅と違和感のないように配慮し、明るい雰囲気づくりを心掛け、利用者が安心して、穏やかに暮らせる居室となっている。また、室内は、整理整頓、清掃が行き届き、居心地の良い居室である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」をスタッフが把握し安心かつできるだけ自立した生活を送れるよう支援している。		